
全力逆走パンデミック

貝柱帆立

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

全力逆走パンデミック

【Nコード】

N21170

【作者名】

貝柱帆立

【あらすじ】

「世界は感染し続けている」

神はムカツク顔でそう言った。何だ何だよ何ですかッ!? 異能が感染拡大中だっ!? 俺には関係ないよチクショーツ!! え? 心臓爆発するぞ?

すいません主人公とか不慣れですが頑張ります。……何を頑張るかっ!? そりゃ『逆走』でしょ。

Reverse・0 『世界は染まり続ける』

「この世界に大規模な感染が起こっている」

夢に出てきた自称・全知全能の神が言った。

俺が何が感染するのかを聞いたら神はムカつく顔で答えた。

「あらゆる生物に異能の力が宿る」と。

正直、俺はそれは楽しそうでいいんじゃないか？ と思った。

だが違うらしい。

「異能の力はその力を使う度に使用者を侵食していき、やがて飲み込む」

そんな説明を受けた。

何て迷惑な病気なんだ、中二病真つ青だとか俺は他人事のように聞いていた。

だが他人事ではないらしい。

「お前が解放しろ」

聞き間違いだろうと思った。

夢の中で何を言い出すかと思いきや病気の治療ですか、俺は医者じゃないんだよバーカ。

そう言い返したら神はいきなり「お前に拒否権はない」とか言い出した。

「いや、拒否してもいいが、拒否した瞬間お前の心臓が爆発する、そついう仕掛けを仕掛けた」

嘘だろ？ 神のジョークは恐ろしいなあ H A H A H A H A H A

「なら拒否してみな」

断固断る。

しかし俺はどうやらこの世界の救世主になってしまったようだった。

夢なので現実味がないのが原因なのかもしれないが、感染とやらを止めれる気がしない。

「さて、夢は直に覚める。詳しいやり方、君の能力などについては君の部屋の机に置いていた。神の直筆サイン入りのメモだ、永久保存版になるだろうから大切に扱えよ？」

そんな言葉と共に。

——神は消える。

——夢は覚める。

そして、世界は染まり出す。

ベッドから飛び起きる。

時刻は夜中の二時を指していた。

俺は歩いて机の上に置いてあるメモを無造作に取ると、読みもせずにもそのままポケットに突っ込んだ。

反射的にだ。

ガシャンッ！！ という音と共に部屋の窓ガラスが割れた。

中に誰かが飛び込んでくる。

ありえない光景だ、この家は3階建てで、俺の部屋は3階にあつたはずなのに。

——これが感染による異能の力。

そして理解した。

俺、相崎伊助は治療者という立場になつたために、全国の感染者に狙われる立場になってしまったのだ。

ありえん、ろくに生活できねーよバカ。ドMならあるいは大丈夫かも知れないが。

そんなことを考えていた瞬間、俺に向かって物凄い速度で黒球が飛ばされた。

避ける時間などなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2117o/>

全力逆走パンデミック

2010年10月9日19時48分発行